

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年 3月 21日

1. 意見陳述申込者

ふりがな
ご 氏 名

年齢37 歳 性別 男

ご 住 所 函館市

2. ご 意 見

サンルダムの無用性について

大河川の最上流域のダムは、河道の貯留効果、洪水到達時間、また他の支流からの流入により、流域の治水に十分な効果は期待できない。まして天塩川水系の 3%の集水面積しかもたないサンルダムを建設しても、ダム直下のごく一部を除いては、現実の治水効果など発生しないと考えられる。

ダム下流では河床や河岸の洗掘現象が生じることが知られており（北海道開発局製作資料集『二風谷ダム建設の記録』ほか）、ダムの建設自体が、新たな別種の災害の要因になることが、今や明らかである。

また、ダムは満水になればその治水効果は失われ、さらに一定水位流量をこえると、ダムの存在自体が危険となる。サンルダムでは十分な実績のない新工法を採用するにもかかわらず、流域委員会では、ダム自体の限界（設計洪水流量、設計洪水位、地震対策等）が示されていないようであり、議論の進め方として大きな問題である。

利水においても、名寄市の人口は 20 年間で 20%減少しており、市の総合計画じたいが今後の人口減を前提に組み立てられている。したがって、早急な新規利水の必要性は薄い。

名寄市では人口減の一方で水道施設の拡張を続けており、この財政負担から、今後 4 年ごとに水道料金の値上げが必要になるとされている。サンルダムを建設することで、この 4 年ごとの値上げが、たとえば 2 年ごと等になるのではないかと。

また名寄市の財政難から、この拡張計画も見直しが必要であるとされており、ダムによる利水根拠は一段と薄くなる。

発電においてはいわずもがな。小型イカ釣船 8 隻ぶんにも満たない発電出力で、いったい何がしたいのか？ きわめて微少な節電でまかなうことが可能な、余剰の電力を発生させるために、今後長きにわたり貴重な自然生態系を破壊し、自然資源の再生産をさまたげるのでは、ダムによる水力発電を、クリーンエネルギーと称することは欺瞞である。

必要のない無駄なダム建設のために莫大な税金を注ぎ込んで国民の負担を増やし、かつ流域の自然環境を破壊し、国民生活を脅かすことは、現代日本最大の愚行である。

無駄なサンルダム計画の取り止めとともに、真に地域国民のためになる開発をお願いしたい。